

## 14. 山陽垂水駅付近の見どころ<海神社>

JR 垂水駅と隣接した山陽垂水駅から南側へ徒歩1分程のところ、神戸市垂水区宮本町5-1に海神社があります。海神社は、一般にはカイ神社と呼ばれますが、正式にはワタツミ神社といい、御祭神として海底（海草、貝類）の神の底津綿津見神（ソコツワタツミノカミ）、海中（大小の魚）の神の中津綿津見神（ナカツワタツミノカミ）および海上（航海の安全）の神の上津綿津見神（ウワツワタツミノカミ）という海にまつわる綿津見三神を祭り、大日靈貴尊（オオヒルメムチノミコト）（天照皇大神の別名）を配祀（主祭神のほかに、同じ神社の中に他の神を祭ること）しております。

社伝によれば、今から数百年の昔、神功皇后（ジングウコウゴウ）が三韓からの帰途、暴風雨により航行が困難になった際、神功皇后自ら綿津見三神をお祭りになり御祈願したところ、風波がおさまり御無事に都へ御帰還できたことから、ここに綿津見三神を祭る御社殿を建て、御神徳を仰いだのが鎮座の由来とのことであります。

この御神徳により、航海安全、漁業繁栄の神として仰がれることはもとより、当地が海上、陸上を問わず、古代交通の要地であったことから、交通安全の神としても、さらに安産祈願、水産業・農業の守護、家業繁栄、家運隆昌および衣食住満足等の神としても仰がれております。

また、伊和神社（兵庫県宍粟市）、粒坐天照神社（イイボニマスアマテラスジンジャ）（兵庫県たつの市）とともに播磨国屈指の神社として、長らく朝廷の尊崇を受けた播磨三大社の一つであります。

海神社の南側を走る国道2号線を渡り南側に歩を進めると、明石海峡大橋を西の方角に望む垂水漁港が広がり、約80隻の船が停泊しておりますが、ほとんどが海神丸と命名されており、海神社への崇敬の高さがうかがえます。

初詣、夏祭り、秋祭りおよび七五三詣り等の各種行事はたいそうな賑わいで、日頃も何かと集いお参りする姿があり、電車の駅とともに駅の東西にあるバスターミナルからの交通の便にも恵まれた身近な神社として人々に親しまれております。（大橋 克彦 記）



海神社 御殿



明石海峡大橋を西方に望む垂水漁港



垂水漁港の漁船の船名：ほとんどが海神丸

### 参考文献

宗教法人海神社：「海神社」<http://kaijinjya.main.jp/index.php?FrontPage>（参照 2022-06-15）

同上：「海神社御由緒略記」

神社と古事記：「播磨三大社とは」<https://www.buccyake-kojiki.com/archives/1000475188.html>  
（参照 2022-07-03）